

ヒメイワトラノオ	<i>Asplenium capillipes</i> Makino	絶滅危惧Ⅰ類
		チャセンシダ科
選定理由	生育地が湿潤な石灰岩地と限られるため、環境変化による種の存続への圧迫に絶えずさらされている。	写真(村瀬正成) 標本 
形態の特徴	根茎は短く斜上し、葉身は2回羽状複生、葉柄と葉身はほぼ同長。中軸には無性芽が出る。	
生態的特徴	山林中の湿った石灰岩上に生育する。	
分布状況	北海道・本州・四国・九州に点々と分布するが、自生地は限られる。岐阜県では県中部と県北部に生育地がある。	
減少要因	山林開発、治山工事、自然災害などによる生育地の消失。周辺地域の開発による乾燥化。	
保全対策	生育地や上流部の山林開発を控え、環境変化を防止する。生育に関しては適度な空中湿度が大切であることから、周辺地区の乾燥化を特に注意せねばならない。	
特記事項		
参考文献		
		

文責:村瀬正成